中部経済新聞

年月日	14	05	29	ページ	1	NO.	

（1）　⑨ 第22604号（昭和21年11月1日第三種郵便物認可）　中

行学一体の学びは実り
愛知学院のあゆみ　好評連載中

きょうの紙面

総　合　2面
今期の中古車販売計画 過去最高
ＶＴホールディングス

総　合　3面
今秋冬物ニット帽 東京の見本市へ
ナカシマ 顧客開拓図る

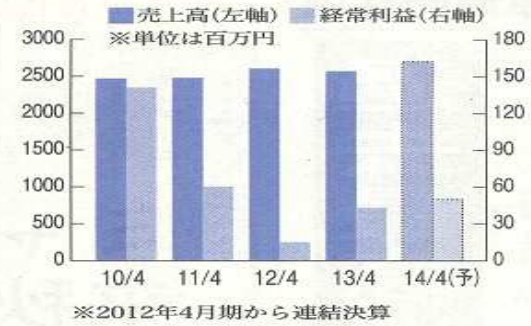
名古屋　4面
常時歓迎「よろず支援拠点」
あいち産業振興機構・志治孝利理事長に聞く

尾張・知多　5面
木工房玄翁屋がビジネス向けの木製品

三河・静岡　6面
介護施設向け巡回ロボット完成
西三河地区などの中小企業９社

岐阜・三重　7面
イトーレイネツがレーザー加工機向けの節電機

メディカル　18面
かめる喜び＝テルミナ歯科クリニック



ＭＩＣＳ化学

上場企業分析

非食品用拡大で収益確保へ

ＭＩＣＳ化学は多層チューブフィルムのパイオニアだ。1971年にオザキ軽化学として設立。94年の店頭公開を経て2004年にジャスダック市場へ上場。06年から盛田エンタプライズのグループ企業となっている。08年に現社名へ変更した。子会社に食品パッケージなどの製造を手がけるエイワファインプロセシングを持つ。

主力の多層チューブフィルムは、3層から5層のフィルムを同時成形し製品化する。エビやカニといった水産加工品やにおいの強いキムチの包装などに採用されており、簡単には破れない丈夫さが強みだ。

非食品分野、海外強化で成長をめざすＭＩＣＳ化学の本社（愛知県東郷町）

■材料費高騰が圧迫

08年のリーマン・ショック以降、売上高は回復基調にあるが、収益力の回復は道半ばといえる。売上高経常利益率でみると、10年4月期が上場来最高の5・7％だったが、13年4月期は1・6％にとどまっている。

主因は円安などで原材料となる樹脂の価格が高騰しているためだ。加えて価格競争の激化も収益力回復に向けて逆風となっている。

14年4月期は冷凍食品向けのフィルムの拡販や医療向け市場の拡大により、売上高27億円、経常利益5千万円を見込んでおり、業績は上向いている。

■中期計画を策定

昨年8月就任した三宅利定社長は、15年4月期を初年度とする中期経営計画を策定した。骨子は「売上高の積み増しによる確固とした収益の確保」だ。非食品分野の開拓、海外市場の強化などが柱となる。

現在、同社の売上高構成比は食品分野は8割に対して非食品分野が2割となっている。

非食品分野では、コンピューターの基板やハードディスク、医療用輸液バッグなどの包装材、自動車内装材の接着用フィルムなどを強化する。中期的には、非食品分野の売上高構成比を現在の2割から3割まで引き上げる方針だ。

また、海外市場の開拓にも本格的に経営資源を投入する考え。11年には中国・蘇州に販売拠点「米可思化学商貿有限公司」を設立。中国の包装材市場の開拓をねらっている。数年後には生産拠点も確保し事業展開を加速する考えだ。

収益力の回復に向けて、自助努力によるコスト圧縮にも限界があると判断し「最終的には価格に転嫁せざるを得ない」（三宅社長）と値上げも視野に入れている。

（今井康紀）

無断転載・複写禁止